

授業科目	* 基礎看護学実習 I				単位	1		
履 修	必修	関連資格	高一種免(看護) 養教一種免		ナンバリング	NU11209J		
開講年次	1 年	開講時期	後期	該当DP	DP1-2 DP2-1 DP4-1 DP4-2 DP5-1			
担当教員	小田 日出子、隅田 由加里、金山 正子							
授業概要	<p>【実務家教員担当科目】</p> <p>看護学生として他者とのコミュニケーションを通して自己の傾向や特徴を知るとともに、既習の知識および技術を活用しながら、入院生活を送る患者を生活者として理解する。また患者と関わる中で、看護者としての態度や姿勢について考え、患者の生活上のニーズを見出す能力を養う。</p> <p>各教員は実務家教員として看護を提供してきた経験をもつ。基礎看護学実習 I においては、患者や臨地実習指導者とのコミュニケーションを通して、看護の基盤となる援助的人間関係の基本的技術を習得できるよう支援する。また看護職として求められる姿勢や態度について考えることができるように支援する。</p>							
学生が達成すべき行動目標	<p>基礎看護学実習 I は、以下1~4の実習目標のもと、各個別行動目標(詳しくは2018年度看護学実習要綱の実習目標)の達成を目指して実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対人関係を通して患者との相互作用を振り返り、自己のあり方や相手の気持ちを考えることができる。</li> <li>2. 既習の知識・技術を通して生活者としての対象を理解することができる。</li> <li>3. 日常生活行動の援助を通して患者のニーズに気づくことができる。</li> <li>4. 看護者に求められる態度・姿勢について考え行動することができる。</li> </ol>							
達成度評価								
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	0	0	30	10	0	60	100	
知識・理解 (DP1-1)								
知識・理解 (DP1-2)						10	10	
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)			30				30	
思考・判断 (DP2-2)								
関心・意欲 (DP3-1)								
関心・意欲 (DP3-2)								
態度 (DP4-1)						10	10	
態度 (DP4-2)				10			10	
態度 (DP4-3)								
技能・表現 (DP5-1)						40	40	
技能・表現 (DP5-2)								
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対人関係を通して患者との相互作用を振り返り、自己のあり方や相手の気持ちを考え記述できる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 患者との初めての出会いに相応しい態度で接している。</li> <li>2) 自己のコミュニケーションの傾向を客観的に記述できる。</li> <li>3) 自己のコミュニケーションが患者に与える影響を記述できる。</li> <li>4) 患者とのコミュニケーションを通して言語的・非言語的表現の意味を考え、患者の言動や反応を整理できる。</li> </ol> </li> <li>2. 既習の知識・技術を通して生活者として対象を理解することができる。</li> </ol>				<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対人関係を通して患者との相互作用を振り返り、自己のあり方や相手の気持ちを考えることができる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 患者との初めての出会いに相応しい態度について気づくことができる。</li> <li>2) 自己のコミュニケーションの傾向に気づくことができる。</li> <li>3) 自己のコミュニケーションが患者に与える影響に気づくことができる。</li> <li>4) 患者とのコミュニケーションを通して言語的・非言語的表現の意味を考えることができる。</li> </ol> </li> </ol>				

1) 患者の健康時の日常生活行動を把握し記述できる。 2) 入院によ	2. 既習の知識・技術を通して生活者として対象を理解することができる。 1) 患者の健康時の日常生活行動について述べるができる。
---------------------------------------	---

授業計画

進行	テーマ・講義内容	授業の運営方法	学習課題(予習・復習)	予習・復習時間(分)
1	基礎看護学実習 I (1単位)の詳細については「2019年度 看護学実習要綱」を参照。 1. 実習単位・時間数:1単位 45時間 2. 実習期間:2020年2月24日(月)～3月2日(月)(※土・日・祝日を除く) 3. 実習時間:8時30～15時30分、(※学内演習時間は9時00分～16時00分) 4. 実習概要:患者とのコミュニケーションをとり、望ましい患者-看護者関係の形成を目指します。また他者との関わり通して、自分自身の言動や立ち振る舞い、感情の生起などを客観的に振り返る機会とします。患者の生活上のニーズを判断	事前学習(自主学習/演習)	【予習】 実習前の事前準備として、以下の通り、学内での自主演習取り組む。日時:2月18日(火)・19日(水)9時00分～17時00 *上記2日間は「自主学習期間」として6号館3階看護学実習室を開放する。なお2月21日(木)はコミュニケーション演習を行い、プロセスレコードの記載に取り組む*基礎看護学実習 I で求められるコミュニケーション技法、生活援助技術及びヘルスアセスメントの実践に備え、既習の知識・技術の習得状況を自主的に確認する。 *臨床実習中に必要とされるケア技術の習熟を図る。 *受け持ち患者決定後	120
2	学内オリエンテーション *日時: 第1回 2020年2月初旬 第2回 2020年2月21日(金)9:00～13:00 *場所:第1回・第2回とも、集合場所等は掲示板で連絡する。 *オリエンテーション内容: ①学科長挨拶 ②実習全体オリエンテーション ③基礎看護学実習 I の概要説明(実習記録の説明含む) ④医療安全と個人情報保護の説明 ⑤実習施設別実習生配置表の配布 ⑥実習施設別オリエンテーション(受け持ち患者の説明含む) ⑦緊急連絡網の作成、実習誓約書の記録など	事前学習(自主学習/演習)	【予習】 ・実習前の事前準備として、基礎看護学実習 I で求められるコミュニケーション技法、生活援助技術及びヘルスアセスメントの実践に備え、既習の知識・技術の習得状況を自主的に確認する。 ・受け持ち患者の理解に必要な、既習の知識を整理する。	120
3	臨地実習(4日間) *日時:2020年2月25日(火)8時30分～2月28日(金)15時30分 *臨地実習初日:2月25日(火)8時30分～15時30分 ・病棟オリエンテーション ・受け持ち患者紹介 ・受け持ち患者を生活者として理解するためコミュニケーションをとる。	臨地実習	【予習・復習】 ・1日の振り返り、実習記録の整理 ・課題の調べ学習・プロセスレコードに記載できる場面を選定し、記載する。	【予習・復習】 180

	・プロセスレコードに記載できる場面の選定・検討			
4	<p>* 臨地実習 2 日目:2 月 26 日(水)8 時 30 分～15 時 30 分</p> <p>・受け持ち患者を生活者として理解するためコミュニケーションをとる。</p> <p>・プロセスレコードに記載できる場面の選定・検討</p>	臨地実習	<p>【予習・復習】</p> <p>・1日の振り返り、実習記録の整理</p> <p>・課題の調べ学習</p> <p>・プロセスレコードに記載できる場面を選定し記載する。</p> <p>・プロセスレコードを通して自己の援助者としてのコミュニケーションを分析し、1回目のプロセスレコードの完成を目指す。</p>	<p>【予習・復習】</p> <p>180</p>
5	<p>* 臨地実習 3 日目:2 月 27 日(木)8 時 30 分～15 時 30 分</p> <p>・1回目のプロセスレコードで明らかになった自身の傾向と学びを踏まえ、患者とコミュニケーションをとり、生活上のニーズを探る。</p> <p>・2 回目のプロセスレコードに記載できる場面の選定・検討を行い記載する。</p> <p>・自己の援助者としてのコミュニケーションを分析する。</p> <p>・1回目のプロセスレコードの記載に至らなかった学生は、教員の指導を受けて完成させる。</p>	臨地実習	<p>【予習・復習】</p> <p>・1日の振り返り、実習記録の整理・課題の調べ学習</p> <p>・2回目のプロセスレコードに記載できる場面を選定し、記載する。</p> <p>・プロセスレコードを通して、患者の生活上のニーズを考え、患者に必要な日常生活援助を検討する。</p>	<p>【予習・復習】</p> <p>180</p>
6	<p>* 臨地実習最終日:2 月 28 日(金)8 時 30 分～15 時 30 分</p> <p>・プロセスレコードで明らかになった自身の傾向(特徴)と分析内容を踏まえ、再度患者とコミュニケーションをとる。</p> <p>・2 回目のプロセスレコードを記載して自己のコミュニケーションを分析する。</p> <p>・患者とのコミュニケーションを通して、生活上のニーズを検討する。</p> <p>・患者ニーズに基づいた日常生活援助を導き出した学生は、看護実践課程用紙を記載し、指導者および教員の助言を受け、見学または実施を行う。</p>	臨地実習 最終カンファレンス	<p>【予習・復習】</p> <p>・1日の振り返り、実習記録の整理・課題の調べ学習</p> <p>・最終提出日までにプロセスレコードを最低2場面分記載し、コミュニケーションのあり方について理解を深める。</p> <p>・最終提出日までに、プロセスレコードを通して導き出した患者の生活上のニーズから、患者に必要な日常生活援助を検討し、看護実践課程用紙を完成させる。</p>	<p>【予習・復習】</p> <p>180</p>
7	<p>* 学内演習日(事後学習日):3 月 2 日(月)9 時 00 分～16 時 00 分</p> <p>・臨地実習記録のまとめを中心に、患者の心理や生活上のニーズの整理や、臨地実習での経験的学びの振り返りを、学生個々の自主的・主体的な学習を軸に進めていく。</p> <p>* 事後学習の主な課題</p> <p>1. 実習全般の振り返り及び必要な臨地実習記録の記載・最低2場面のプロセスレコードの修正・加筆・看護実践課程用紙の修正・加筆</p> <p>2. 指定された最終提出期限までに、臨地実習記録の提出を済ませられるよう、臨地実習記録全般の見直しと充実・整備を図る。</p> <p>* 実習評価のための「</p>	事後学習:自主学習と個人面談	<p>【事後学習での課題】</p> <p>1. 最低2場面のプロセスレコードの修正・加筆</p> <p>2. 看護実践課程用紙の修正・加筆</p> <p>3. 基礎看護学実習 I のまとめの修正・加筆</p>	
8				

9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	この1年間で学習した総合人間科学(心理学)、専門基礎科目(看護形態機能学Ⅰ・Ⅱ、対人関係論、)、看護専門科目(看護技術論、生活援助技術論、看護学概論)の知識・技術の活用が求められる			
テキスト	基礎看護学実習Ⅰの詳細については、学内オリエンテーション時(2020年2月初旬)に、【看護学実習要綱2019年度】に基づいて説明を行う。			

参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	事前の学内学習および病院実習中に、必要に応じて、適宜、紹介、助言する。
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	みなさんは日々、何の支障もなく、日常の生活を営んでいると思います。しかし病気になったり、障害を持つことによって、この当たり前に行っていた食事や入浴、排泄などの日常生活行動が自分で行えない、または他者の援助がなければ行えない状況に陥ることがあります。このような状況に陥ったら、人はどんな気持ちを抱くでしょうか。看護師はこのような患者の気持ちの変化をコミュニケーションを通して理解するように努め、その時の患者の言動や反応から生活上のニーズを分析します。そして患者が抱える不安や苦痛が少しでも改善できるように、安全・
達成度評価に関するコメント	<p>実習評価表による三者評価（60%）、実習記録(30%)、及び実習態度・学習姿勢・グループ貢献度(10%)で評価する。適宜、個人面接を実施し、上記の指標をもとに総合的に評価する。</p> <p>1. 実習評価表の内容は、4つの実習目標の内容を自己評価、臨床実習指導者の評価、看護教員の評価の三者評価によって総合的に評価する(60%)。とくに DP5【技能・表現】の内容の DP5-1「看護の対象と良好な関係を築くことができる」の項目は重点的に評価する。</p> <p>2. 実習記録の評価内容(30%)は、実習記録に書かれている内容から、DP2【</p>